

2018年6月18日(月)

仙台市地域ぐるみ生活指導連絡協議会総会 及び第1回定例会(に参加して)

健全育成事業を行っている中学校区(当校は、東仙台小学校区と新田小学校校区の2つを併せています)単位での参加でした。

総会から始まり、役員及び事務局員紹介や協議を終え、休憩をはさみ、千葉敬愛短期大学 学長 明石要一氏の講演「青少年育成者の養成はどうすればよいのか」を聴きました。

- ・「安心して」「安全に」「教育できる」町づくりが人を呼ぶ
- ・人を観察し、振る舞いで人間を理解しよう
- ・親戚が減ってきた。身内でありライバルとしての「いとこ」に変わる「ナナメの関係」の構築をどのようにすればいいか…今後の課題

- ・3世代家族世帯が多い福井県は学力が高い。家庭が安定し、低温で健康、社会教育が盛ん
→「家庭と地域がしっかりしている」

- ・よい組織になる条件とは、程よく「緊張」があること
- ・中学生は自分の居場所が欲しい
- ・地区児童会の活動があると、地区子ども会が活性化する
- ・おもしろい話のコツ

- ①数字を使う(わかりやすい)
 - ②たとえば、が多い(ケーススタディ、事例の紹介)
 - ③ちよびり夢と希望を与える
- ①、③は各30秒、②は1分、合計2分で話すこと

など、とても軽妙な語り口で、時に笑いあり、ショートディスカッションありで、あっという間に時間が過ぎた感じでした。

地区児童会のお話がありましたが、私が小学生の頃(土曜日も登校し、3時間授業の時代)は、地区児童会の集まりがあり、同じ町内の子どもが顔を合わせて、学年関係なく関わりを持っていました。夏休みのラジオ体操や、夏祭り、子ども会でのキャンプなど、イベントでは自然に上級生が下級生の面倒をみていました。地域の大人とも顔見知りだったため、誰かが子どもを常に気にかけてくださっていたと思います。

今では難しいことかもしれませんが、このような昔の良さを取り入れていくことも、健全育成を推進する上で不可欠なことのひとつと感じました。

P T A会長 高松 博子